

【防災情報】北上川下流河川事務所 地震災害情報（第121報）

復旧工事の現地説明会を開催します。

～北上川、鳴瀬川の内陸部等で復旧工事が最盛期を迎えています～
～建設資材の不足に対応するため、河川に堆積した砂を有効活用します～

北上川下流河川事務所では、東北地方太平洋沖地震により被災した管内の北上川、旧北上川、江合川、鳴瀬川、吉田川において、内陸部堤防などの本格的な復旧工事を進めていますが、台風等の出水時期を終え、地盤改良、築堤工等が最盛期を迎えています。
この度、これらの施工状況の現地説明会を報道機関を対象に開催しますのでお知らせします。
現地説明会では、復旧工事で行われている代表的な工法を説明する他に、周辺地域での復旧・復興工事で生じている建設資材不足への対応として、河川に堆積した砂を、堤防の地盤改良に有効活用している取り組みも紹介します。

《現地説明会》

1. 日時 : 平成24年11月20日（火）10時00分から11時30分
2. 説明場所 : ■ 吉田川山崎地区（下流）
地盤改良工事[締固め工法(サンドコンパクション工法)]
※河川の堆積砂を有効活用している現場

■ 吉田川山崎地区（上流）
堤防の切り返し復旧工事

■ 吉田川羽生地区
地盤改良工事[混合処理工法]

- ※ 集合場所 品井沼大橋上流（宮城郡松島町幡谷）・・・別紙参照
※ 集合時間 平成24年11月20日（火）9時30分
※ 集合後、順次移動しながら、各箇所の施工状況を説明します。

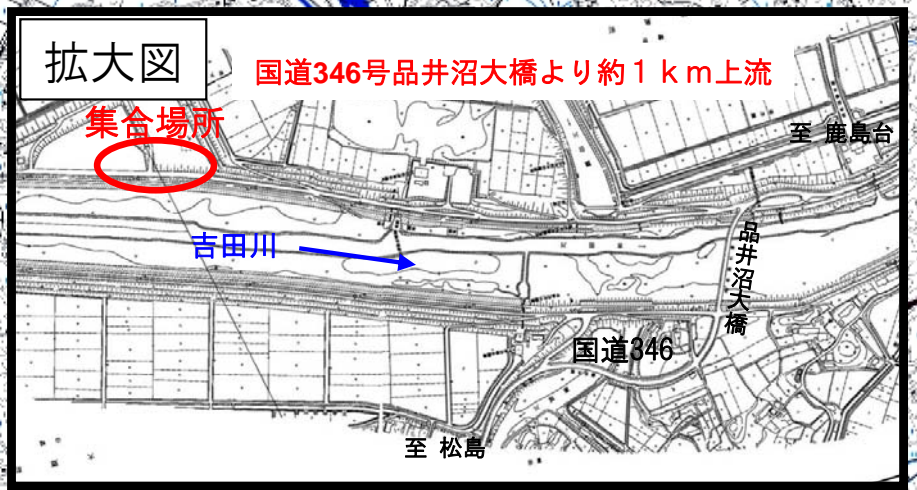
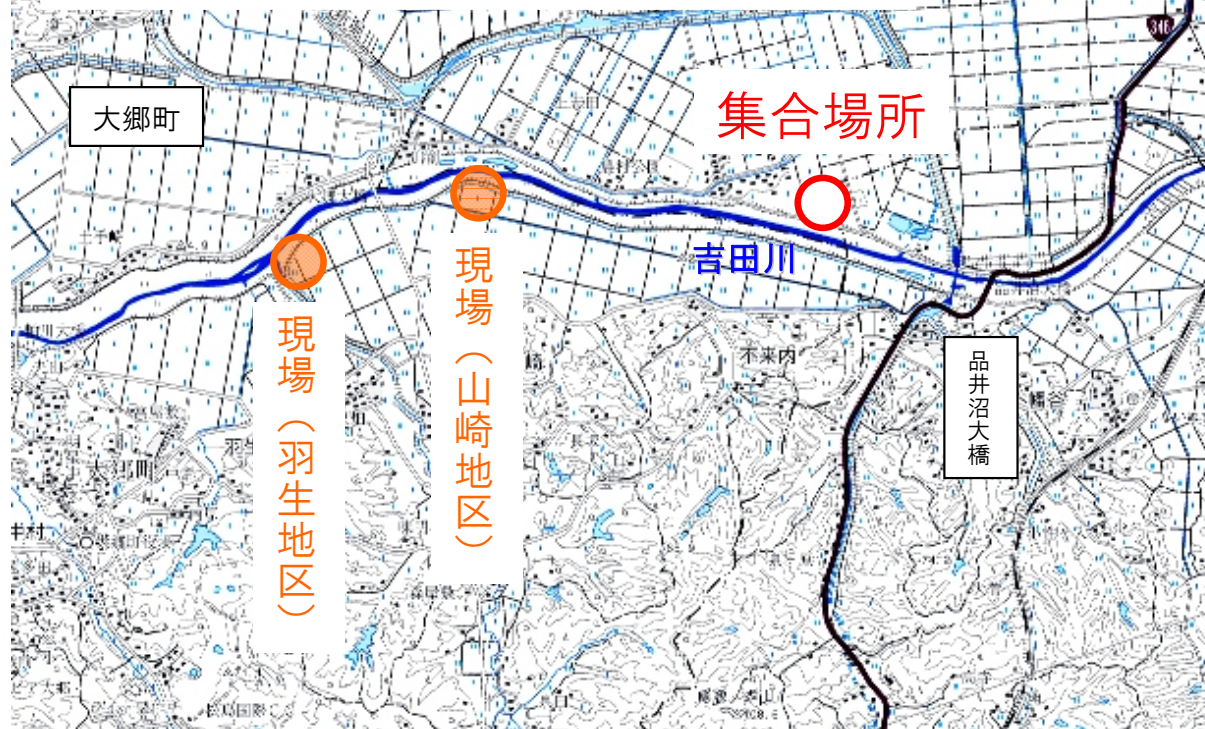
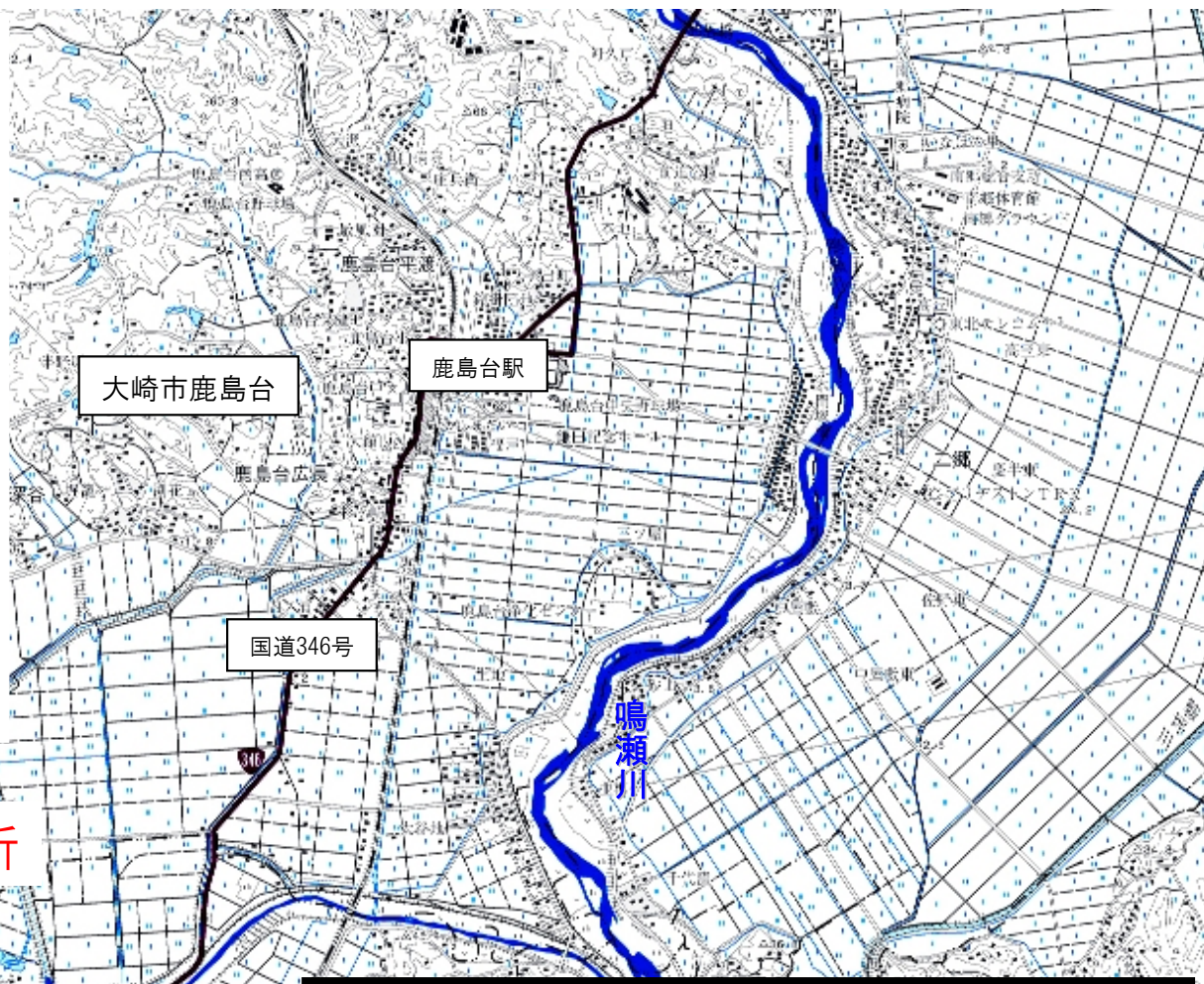
北上川下流河川事務所記者発表についてはホームページでご覧になれます。

ホームページアドレス【 http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/index_2.html 】

発表記者会：石巻記者クラブ、古川記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所
宮城県石巻市蛇田字新下沼80 電話：0225-95-0194（代表）
技術副所長 本田 英則（内線204）
工務第三課 小川 直樹（内線381）



北上川下流河川事務所の内陸部等災害復旧状況について

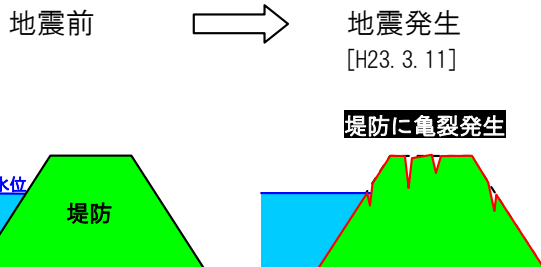
1. 東日本大震災による堤防被災の概要

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、宮城県栗原市で震度7、大崎市・東松島市で震度6強など、東北地方から関東地方の太平洋側を中心に広範囲で非常に規模の大きい揺れを観測し、北上川下流河川事務所管内の一級河川の堤防が多くの被災を受けました。堤防の被災形態は、液状化被災と液状化以外の被災に大別することができます。

液状化以外の被災（堤防亀裂）



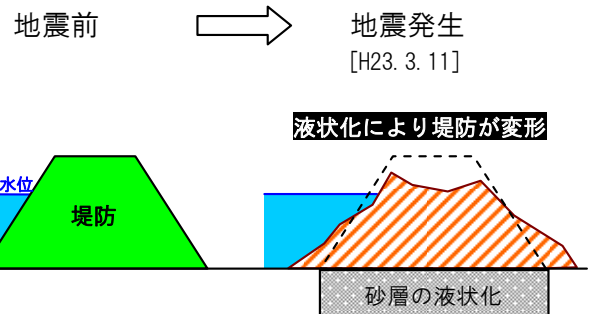
新江合川 下中目地区の被災状況



液状化被災



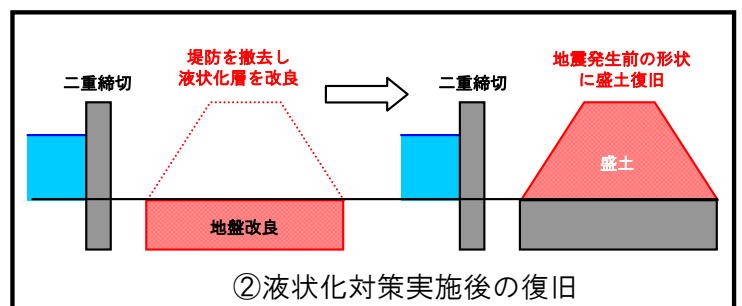
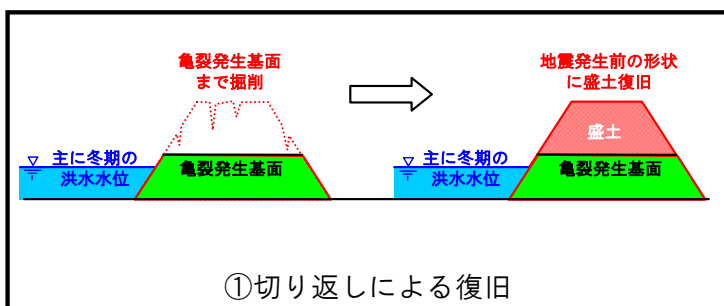
鳴瀬川 下中目地区の被災状況



堤防被災状況及び概念図

2. 被災形態毎による復旧方法

北上川下流河川事務所では、堤防の復旧を被災形態毎に①切り返しによる復旧、②液状化対策実施後の復旧に区別し、被災箇所毎に復旧方法を選定し、復旧工事を進めています。

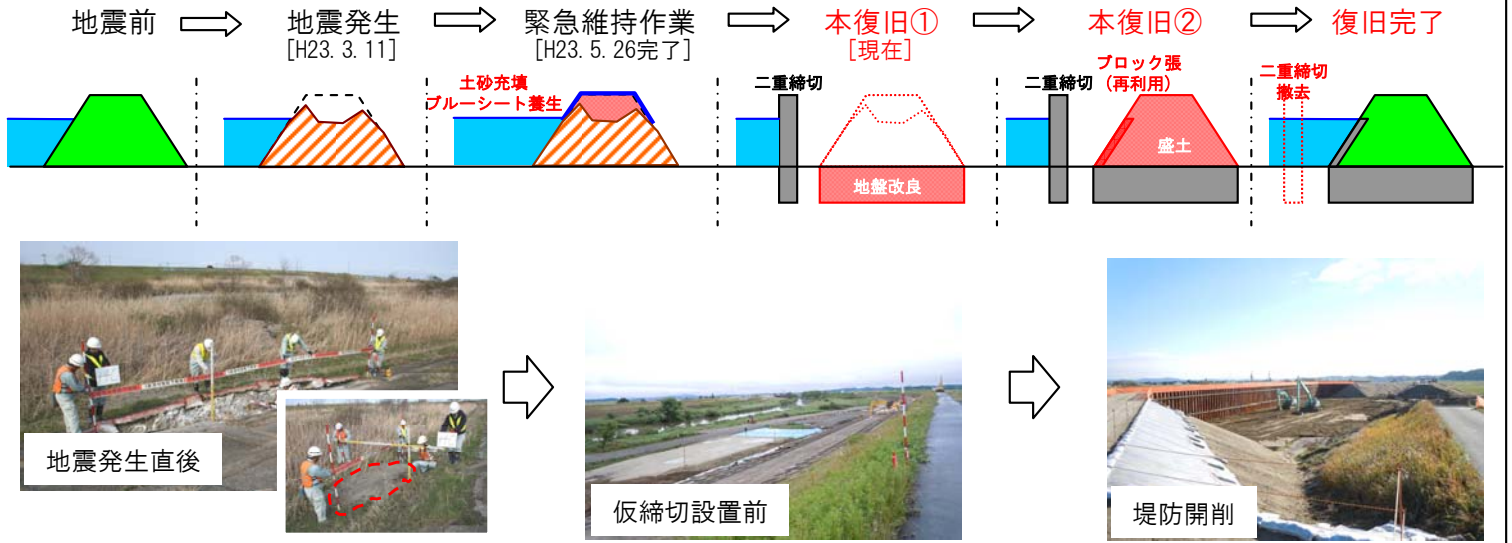


堤防被災形態毎による復旧方法

3. 見学予定現場での主な施工内容

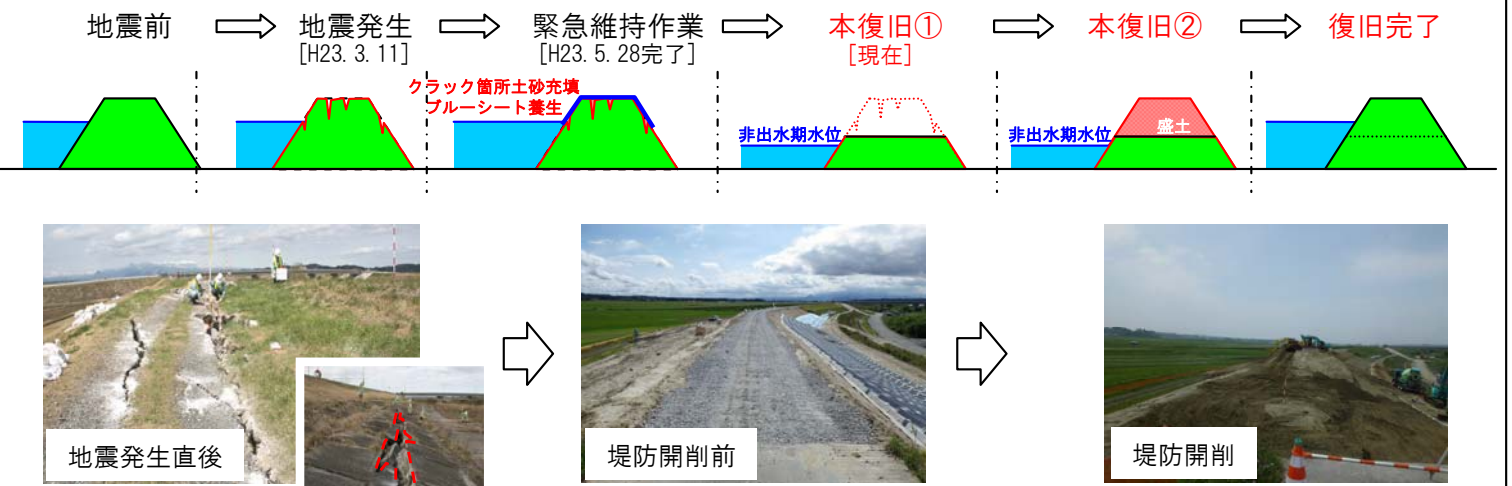
■ 吉田川山崎地区（下流）

工程：仮締切設置→地盤改良（締固め工法）→堤防復旧



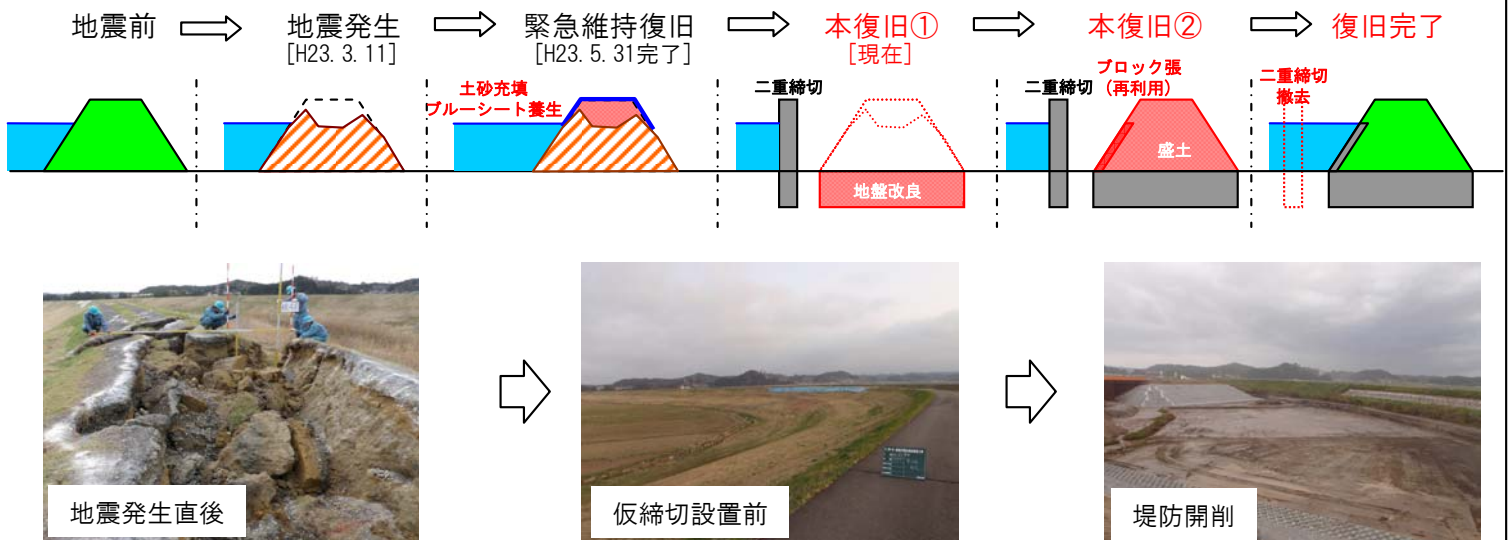
■ 吉田川山崎地区（上流）

工程：クラック発生箇所堤防切り返し→堤防復旧



■ 吉田川羽生地区

工程：仮締切設置→地盤改良（浅層混合処理工法）→堤防復旧



4. 復旧工法のイメージ

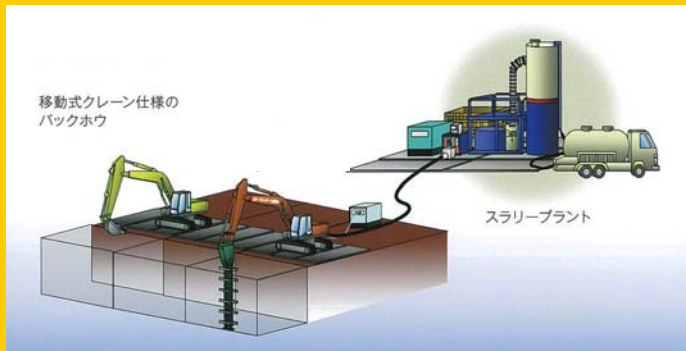
■クラック発生箇所堤防切り返し

地震により堤防に発生した亀裂により堤防が緩んでいるため、亀裂発生基面まで掘削して、堤防を再度構築します。



■地盤改良（混合処理工法）

液状化地盤にセメント等の改良材を供給し、原位置の地盤土と攪拌混合することにより、土と改良材を化学的に反応させて強度を高める液状化対策工法です。



■地盤改良（締固め工法[サンドコンパクションパイル工法]）

液状化は地震によって密度の小さい砂地盤の砂が水の中に浮いた状態が原因であるため、ゆるい砂地盤の中によく締まった密度の高い砂杭を造成することによって液状化を防ぐ工法です。



～建設資材の不足に対応するため、河川に堆積した砂を有効活用～

宮城県内では、海岸部を含む震災復興関連工事が急ピッチで進められ、生コン骨材としての砂及び根固めブロック等の主材料となる生コンの供給が困難であることが確認されています。

このため、地盤改良のうちサンドコンパクション工法の主要材料である砂の供給が困難と想定されることから、早期災害復旧及び資材の安定供給のため、江合川・鳴瀬川等において河道内に堆積し洪水の流下能力を阻害している砂の有効活用を図ります。

